

氏名	濱 脇 光 範		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 5 1 9 号		
学位授与の日付	昭和47年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	乳幼児期における成長と尿中排泄Hydroxyprolineとの関連性に関する研究		
論文審査委員	教授 水原舜爾	教授 橋本 清	教授 山崎英正

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

近年、尿中に排泄される結合型Hydroxyproline 量と膠原組織の代謝との間には密接な関係のあることが注目され、これの測定が化学的成長の速度を知る手段として活用されようとしている。

そこで、著者はまず、生後2～3カ月までの幼若人工栄養児において最近しばしば経験される急峻な体重増加の問題を化学的成長と関連せしめて検討してみた。その結果、結合型Hydroxyprolineの尿中排泄量は栄養法間に差がなく、また、著明な体重増加を示した児においても変化しなかった。かかる事実は上記の体重増加が膠原組織代謝とは直接関係のないものであることを示しており、何か真の成長以外の要素の関与を思わしめる成績であると述べた。

次に、今日、未開発地域の蛋白質栄養失調証、Kwashiorkorの早期摘発の一手段として結合型Hydroxyproline の測定がなされていることに注目し、蛋白質摂取状況の悪かった岡山県北部山村地域の幼児について排泄量を検討してみた。その結果、これの排泄量には地域差が証明されず、わが国においては膠原蛋白代謝に支障をきたす程の栄養失調症が今日もはや存在しないことを知り、結合型Hydroxyprolineの測定がわが国の幼児栄養状態の評価基準としては不適當であろうと述べた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、ヒドロオキシ・プロリンを含むオリゴペプチドが大人の尿には時に微量に発見されるが、小児の尿には常にかかなりの量排泄されている事実から、小児に於けるその排泄量が成長速度や栄養状態の指標として活用し得るのではないかとの最近の見解の正否を検討したもので、著者は先ず母乳栄養児と人工栄養児についてしらべた結果、特に急激な体重増加をとまなう人工栄養児

に於いてさえ、その排泄量に差異のないこと、更に蛋白質摂取量の少ない僻地幼児と栄養状態のよい地方の幼児について比較測定した結果やはり両者に大差はないことを結論し、上記見解はあやまりであることを報告している。小児栄養学上価値ある業績と認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。